

平成二十七年度
金沢大学人間社会学域
学校教育学類附属小学校卒業式

祝辞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

今日、ここに、卒業の日を迎えられたことを、心よりお祝い申し上げます。

昨年のちょうどこの日、3月14日は金沢に新幹線が来た日でした。みなさんは、その時のことを覚えていますか？ あれから1年間、金沢の暮らしは大きく変化しました。みなさんはどうでしたか？ 今、みなさんは、小学生から中学生へと、子ども時代の中でも一番大きな変化を遂げる最中にいます。

こうして見ると、世界は変化ばかりしていて、「同じこと」や「同じもの」は実は何もないように見えます。古代ギリシャの哲学者、ヘラクレイトスは、昔、「人は同じ河に二度入ることはできない」と言いました。犀川や浅野川でみなさんの足を濡らした水は、もう二度と同じようにその河に戻っては来ないからでしょう。わたしたち人類でさえも、恐竜が栄えた2億5千万年ほど昔には、今のような姿形ではなく、ネズミのような格好をしていたようです。それが進化の末に、現在の私たちへと変化しました。私たちの宇宙だって、140億年ほど前のビッグバン、大爆発から変化に変化を重ねて、ようやく40億年前に地球を生み出しました。

でも、本当は、すべてが変化ばかりであるというわけではありません。みなさんの足を濡らす水は違っていても、みなさんが今年、足を入れる河は去年と同じ犀川であり、浅野川です。また、どこに線を引きかは別として、わたしたちが人類である限りは、人類であることの本質は変わらないでしょう。それは、誰かがいつか言ったように、「真理の探究」と「自由の実現」と「表現への欲求」かもしれません。

では、みなさんが成長してどんどん変わっていくとき、それでも変わらない「何か」とは何でしょうか？ 私が思うに、それは、みなさん一人ひとりの「個性」です。みなさんがそれぞれに持っている、友達とは違う「自分」です。みなさんは、これから大人になるにしたがって、みなさんの「個性」を完成させていくことでしょう。そしてその「個性」こそが、グローバル化した社会というこれからの激しい変化の中で、みなさんの居場所をしっかりと与えてくれるものです。

友達と違うことを恐れてはいけません。むしろ、友達と違うところを大切にしてください。「個性」とは、他人と違うということの意味しているからです。その「違い」が、科学や芸術や企業の世界でみなさんに成功をもたらしてくれるかもしれません。しかし、そうではなくとも、みなさんが他とは違う「独特な存在」であること、「ユニークな存在」であることに価値がある、と私は思います。

ですから、これから中学校に進んで行ったとき、ぜひ自分だけの「やり方」を見つけ、それを恐れることなく試してみてください。皆さんが育った附属小学校は、自主的に学ぶ力、自ら困難を克服する力を大事にしてきました。その力が、中学校でもみなさんを助けてくれるでしょう。

最後に、今日の良き日を迎えられた保護者の皆様に心よりお慶びを申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成 28 年 3 月 14 日
金沢大学副学長・柴田正良